

WUB活性化へ連携強化



ちゆら島の魂響け 未来

若者集める施策展開 ■フェイスブック活用

世界各地のウチナンチュのつながりを深め、ビジネスの創出につなげるWUB（ワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーション）の世界大会が12日、那覇市のホテルロイヤルオリオンで開幕した。パネルディスカッションでは、香港やシンガポール、ハワイなど各国・地域の支部代表らが登壇し、ビジネス創出の事例が乏しく、会員が集まりにくいなどの課題を指摘。活性化に向け若者を巻き込んだ新たなビジネスの枠組み構築や人材育成のほか、各国の会員がインターネット交流サイト「フェイスブック」を活用して情報交換を密にするなど、連携を強化することなどで一致した。（1面参照）



世界大会開幕 各国から意見

WUB創設者のロバート仲宗根氏が進行役を務め、来場者と意見交換する形で課題を整理。会場からは「交流だけでは（組織としての）力は出ない。沖縄から支部に力を入れるべきだ」「成功事例を見せて全体をけん引してほしい」などの提言があった。全日空（ANA）の国際航空物流ハブ事業で、沖縄とアジアを結ぶ直行便が整備された交通環境の積極利用や、日系社会とともに政府に共同で働き掛ける体制の構築を求める意見が上がった。

沖縄テレビ放送元常務の前原信一氏は、親睦団体の県人会と、WUBの目的が重なり「ビジネスに結びついていない点がある」と述べ、「直接的な利益がなくとも参加できる魅力が必要」と若者を取り込む施策の展開を求めた。

WUBシンガポール会長の遠山光一郎氏はインターネット回線のIP電話やフェイス

薄れる肝心見詰め直して

「世界ウチナンチュ紀行」など海外系人の活躍を紹介するテレビ番組の制作に携わった、沖縄テレビ放送元常務の前原信一氏が「移民のパイオニアに学ぶもの」と題して講演。経済発展に伴う競争社会の進展で「ウチナンチュの思いやりの心が薄れてきている」と指摘。若い世代を中心に沖縄のウチナン

OTV元常務
前原氏が講演



前原信一氏

を振り返り、アイデンティティを再認識すべきだと訴え、県系人が現地での労苦を越えてきた精神の礎を「愛や相互扶助の精神、団結力」と説明。

海外のウチナンチュはグルグル（肝心）を大切にしているが、最近の沖縄では薄れつつあるというとし、「もう大切な心を見つめ直してほしい」と呼び掛けた。

ブックを活用し、相互に情報交流できる体制を整え「一点の活動を線につなぐべきだ」と訴えた。

WUB沖縄会長の東良和氏は「漠然ともうかりたいとい

WUB会長に長嶺氏

来年1月就任 任期2年



長嶺為泰氏

世界17カ国・地域に展開する21支部のウチナンチュゼンネス組織を統括するWUBネットワークの牧志泰三会長

の後任に、副会長の長嶺為泰氏（WUB東京名誉会長）が就任する。来年1月に就任予定で、任期は2年。

11日、那覇市のホテルロイヤルオリオンで開かれた同ネットワークの理事会で決まった。

副会長にはWUBハワイ前会長のロイド新垣氏、WUBブラジル会長の大城健治氏がそれぞれ就任。現副会長のWUBペルー前会長の赤嶺光弘氏は退任する。

2011年(平成23年)

10月13日 木曜日

沖縄タイムス